

議事録

第XⅢ期うきたむ学講座総括実行委員会

日時	平成31年6月1日(土) 10:00~
場所	米沢女子短期大学
座長	委員長 吉田 歆
参加者	副委員長 岩崎義信 委員 佐藤鎮雄 佐藤公保 渡部眞治 青木慶一 角田朋行 益田則雄 事務局 渋谷孝雄

1. 開会あいさつ 岩崎副実行委員長

2. 委員長あいさつ 吉田実行委員長

3. 座長就任 吉田実行委員長

4. 報告

(1) 第13期うきたむ学講座事業報告並びに決算報告について

事務局から資料1、2頁に基づいて説明を行い、承認を受けた

(2) 第XI期うきたむ学講座の総括について

事務局から資料3~6頁に基づいて説明を行い、承認を受けた。

(3) その他

3回講座修了後に実施した資料7頁のアンケート結果について、分析し報告した。特に2回講座の出席者が多かったこと、そして、はじめて参加された方も多かったことでアンケートを見ても分かるように、鉱山に大きな関心を持つ受講者が多かったこと、参加人数は少なかったが、3回講座の白鷹の二つの県指定無形文化財の手仕事は地域づくりから始まったこと等に感銘を受けた方が多かったようである。

5. 協議

(1) 第XⅢ期について

配付資料項目以外に意見はなかった。

(2) 第XⅣ期講座実施計画について

渡部: 山形県の郷土史家の先駆けである伊佐早 謙の蔵書「林泉文庫」は米沢市立図書館、白鷹町の瑞龍院門図書館、米沢女子短期大学附属図書館、山形大学附属図書館に分散されて収蔵されている。山形大学の新宮先生は琉球に関連する林泉文庫の研究を進めているので、それのお話を是非聞きたい。

また、昨年は辞退したが、私の修士論文も発表可能な状況である。

秦：八谷鉦山、板谷鉦山、金、ジークライトなど鉦山に関係するものに関心がある。また、用水堀の配置から見た川西町の土地利用もいかがだろうか。

佐藤：参加者数が減少し、参加費だけでは講座を維持できなくなっていることは心配だ。チラシの配布の仕方など有効な手だてはないものだろうか。

長井市史の原始古代中世編が刊行されたが、市史編纂事業についてお話ししていただくことはいかがだろうか。

岩崎：中世で新しい研究成果があがっている。長井荘の初見史料は愛知県西光寺の地藏菩薩像胎内印仏銘に残された「出羽国長井荘」で、これについては6月15日の歴史講座でお話ししていただくことになっている。

：五味沢の戦国末から近世初頭

まとめ

XIV期講座は、本日出された意見を参考とし、委員長、運営委員、事務局で意見を集約しながら、10～11月開催の実行委員会までに具体化を進めていく。

その他

事務局から、通信費の削減を行い、できるだけ運営費の正常化を行いたい旨の意見を出した。具体的には実行委員への連絡に使われてきた郵送費を削減するため、電子メールアドレスをお持ちの方には、郵送をやめること。うきたむ風土記の丘考古資料館ホームページに「うきたむ学講座実行委員会」のページを設け、ここに、諸資料を収めること。

以上の提案に反対意見はなく、今回の結果報告までは郵送、それ以降は、できるだけ電子メールを使うことが了承された。

うきたむ学講座のメールアドレスはつぎのとおりです。

ukitamugaku@ukitamu.pupu.jp

メールアドレスをお持ちの方は、このアドレスに、お名前とメールアドレスをお知らせ下さい。